

## 教育改革事務部門管理者会議の開催結果

1. 開催日時：平成30年10月31日(水) 13:00～17:00
2. 開催場所：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館） 5階 大雪
3. 参加者：111名（71大学、1短期大学） 前年度：89名

### 4. 開催趣旨

学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針が制度化され、教育改革の実質化に向け各大学の取り組みが進められています。他方、20年後の社会では、全てのモノがネットにつながり、人工知能などの技術革新が日常化して産業構造や働き方、生活に至るまで大きな変化が予想されています。決まりきったことをする仕事から、自から問題を発見し解決に取り組み、新たな価値創造につなげていくなど、仕事の質が大きく変わってくることが様々な場で取上げられています。

そこで本会議では、やがて到来する社会を想定した大学教育の課題と方向性について認識を共有する中で、IRの導入・学修成果可視化による質保証の取り組みと、教育・研究・経営活動における情報資産の防御対策の強化、情報環境投資額及び補助金ニーズ調査、ICTを駆使した分野横断型授業モデル及び外部評価モデルなどについて、最新の情報を提供し、教育改革の促進に向けて理解を深める機会とした。

### 5. 実施結果

上記の日程で開催し、参加者が去年より22名増加した。

プログラムは、講演と関連情報の提供を行い、2040年を想定した人材育成のあり方、IRを通じた教育成果アセスメントの活用、計画立案・政策形成・意思決定を支援するIR活動の紹介、ベンチマークによる情報セキュリティ課題と対応すべき防御行動について認識の共有を図った。

講演は、「今後の高等教育の将来像について」（文部科学省：江戸朋子氏）、「IRと学修成果可視化の取り組みと課題」（関西国際大学：藤木清氏）、「企画立案支援のためのIR活動の紹介」（上智学院：鎌田浩史氏）、「情報セキュリティ防御対策強化への対応」（文京学院大学：浜正樹氏）を行い、事務局から「教育への情報化投資の実態」、「情報関係補助金の要望」、「分野横断型授業モデルの試行」、「学修成果の質保証に向けた外部評価モデル」についての情報提供を行った。

アンケートの来年度希望するテーマとしては、IRの取り組み、学修成果の可視化・質保証の取り組み、教学・業務システム、効率化・働き方改革の事例、セキュリティ対策、クラウドの活用事例などがあつた。